

華人經濟 経営研究

～彼れを知らず己れを知らざれば戦う毎に必ず殆うし～

「爆買」の理由

華人・中国社会は、人的つながりを重視し、様々なつながりのネットワークが、錯綜している社会なのである。そして彼らはこの繋がりの中でビジネスを展開する。その繋がりには、ビジネスを安全に展開する上での保障でもある。従って、このつながりの日頃の養生が大切である。日本に来る観光客の爆買が話題となっているが、何のために大量に買い物をするのか、それは、自分のためではなく、お土産である。大切な自身の人的つながりの養生のために大切な人にお土産を配り、日頃のお付き合いへの感謝を現わす「送礼」

華人圏・中国ビジネスでは、その人的ネットワークに注目してビジネスを考えて行かなければならないと強調してきた。それは、その絆の強さ故であるが、今回はその弱さについても考えたい。

華人ネットワークの強さと弱さ

である。それはまた、自身の面子の素晴らしさ大きさのアピールすることでもある。

であり、このつながりの中は開かれた社会である。しかし、この社会は、このネットワークの外に対しては、強固に閉鎖的である。このネットワークの中の様々な事柄は、外部には極秘である。絶対に漏らしてはならない掟がある。口の堅さが大切である。

五千年の「必要悪」と 反腐敗運動

関係(GUANXI)は、単純な人間関係ではなく、それぞれの持つ資源の交換、give & takeと言う打算が伴う。資源とは、即ち、カネであり、利権であり、商権であり、社会的地位であり、人脈であり、営業秘密であり、技術・ノウハウなどである。こう言う資源の交換を通じて「自己人」領域まで関係(GUANXI)を深めなければ生きていけないの歴史は簡単には変えら

れない。従い、受けた利便、恩返しに対しては、必ず相応の返礼をしなければならぬ。儒教的規範が大切となる。これを怠ると関係(GUANXI)は崩壊する。

ここに華人ネットワーク、関係(GUANXI)の強さと弱さが同居している。

今日、中国社会にはびこり、共産党政権を危機に陥れている党員・官僚の腐敗は、利権絡みの「回扣(ホエウ)、金銭的賄賂である。この悪しき習慣は昔からあり、「陋規(ロウグエイ)」と言う、必要悪としての悪しき習慣、陋習である。共産党が、社会的倫理を逸脱してこの「陋規」にまみれることになったのは、甚だ残念、4～5千年の歴史は簡単には変えら



【馬場正修 (ばばまさのぶ) さん】 関西日本香港協会理事、同協会華人経済・経営研究部 主任研究員。1972年関西学院大学経済学部卒。三井物産出身。繊維貿易畑を歩み、台北・山東省青島勤務など中華圏に8年在勤。2003年4月より5年間ジェトロ大阪本部貿易・投資アドバイザーを務める。2007年4月(株)貿易人を設立。現在、ジェトロ神戸・高知・金沢ほか、香港貿易発展局等の貿易・投資アドバイザー。大阪商工会議所 中国ビジネス特別委員会 委員、中国経済・経営学会 会員、日中関係学会 会員。【日本香港協会全国連合会】
http://www.jhks.gr.jp/
[CMMS] http://www.jhks.gr.jp/school/

次世代への継承

共産党政権の反腐敗運動で摘発され、この関係(GUANXI)ネットワークの形成を可能とする一角が崩れるとこのネットワークの人的つながりは壊滅する。今、中国社会に起きている社会変動が、こ

ここの華人ネットワーク、関係(GUANXI)の強さと弱さが同居している。この関係(GUANXI)ネットワークが、強固で活発に機能している限り、外部の何者をも排除して、強力である。それには、条件がある。それぞれの成員が持つ資源に揺るぎがないこと、共有している利権が揺るぎないこと、秘密が漏れないこと、そして、それぞれの成員が健康で生き延びることなどである。

また、新たな革新的な商品・技術の参入、インパクトによって、即ち、新たなビジネスモデル(商権)の参入が、既存のビジネスの2カ月に3回掲載します